

沖繩作戰  
ニ於テ

才四十九頁 地誌隊本部 史官資料

昭和三十二年三月三日  
才三十三軍 陸務總理部

一 米軍上陸(昭和十九年七月) → 二十年四月(日)

昭和十九年七月二十二日

甲府東部方面三部隊二隊

動員完結

同年

同月二十四日

甲府縣公発 品川縣冬田下

開二向

同年

同月三十一日

門司港三二隊二分

京坂八月一日公発天草

沖鹿兒島港ヲ經テ八

月十日及二十一日二那覇

港着埠頭ニ本部ヲ

置キ其駐業務ヲ開始ス

本島其駐業務(圓滯)

同年八月二日

沖繩縣中頭郡嘉手納  
" " 口頭郡瘦久地

二支部ヲ設ケ

一部兵力ヲ分遣セシ

嘉納支部長 陸軍中尉 長澤未作

瘦久地 安西敬三

支站主任務

軍要需品、揚塔、輸送、埠頭、警備宿泊  
其他支站業務一切及心沖繩鐵道司命  
部、統轄

本部業務分擔左ノ如シ

業務部 陸軍大尉 山崎 實

經理部 陸軍主計中佐 大友 宏

衛生部 陸軍々醫中尉 大谷 謙之助

獸醫部 陸軍獸醫中佐 阿部 成

尚 支站輔下及心指揮下部隊トシテ左ノ部隊配屬

セシ

陸上勤務方七十二中隊(球四八三三部隊) 陸軍中尉 劍

持作治

" 方八十三中隊(球五七三部隊) " 森田 芳雄

獨立自動車方二二五中隊(球五八九部隊) " 山口 鉄治

方二九九中隊(球六〇五部隊) " 大島 國之

特設水上勤務第一三中队(球八六六)部隊(陸軍中尉)

市川武雄

第一四中队(球八六七)部隊

中山忠一

只波本部直轄自動車中队(九月作并才九十六)陸軍中尉

神野清一

九月球一六六部隊西山自動車中队只波二配屬

(於那霸) 長陸軍中尉 西山榮

二部隊那霸上陸後、行動概要

昭和十九年九月下旬軍復原陣地、洞窟窟掃

築作業局 只波築城隊

(長陸軍中尉 宮原政章)

島尻郡南原村神皇流道、陣地構築ヲ開始ス本部ハ

那霸市ノ通商街豐高總農會跡(埠頭附近)

ニ位置シ兵舎ハ松山町縣立才高女、一部ヲ便

用ニ將校ハ市内ニ分散宿泊セリ 昭和十九年十月

十日未明米軍、本島初大空襲ニ際シ部隊ハ直

ニ戦斗配備ニ就キ埠頭、軍需品、搬出分散ニ務メ

又逃灣、負傷者、救療病院後送ニ努メタリ

午後ヨリ那霸市内焼夷彈攻更ニ埠頭本部ヲ始メ

糧料倉庫焼夷ノ為メ相當ナル被害ヲ出セルモ幸ニ

人員ニ死傷ナク僅ニ部下部隊於テ若干ノ死傷者ヲ

出セリ同日南洋部隊ハ神皇附近ニ集結部下部隊

ニ同部附近ニ分屯セリ

十月中旬ヨリ那霸一廢上坂整理鐵道復々萬三全カヲ  
注下他日ノ兵站業務ノ再開ヲ準備ス  
十一月部隊本部ハ那霸市若狭町ノ那霸裁判所内ニ移  
轉シ業務部ハ那霸埠頭附近萬國勸業銀行跡ニ置キ  
兵站業務ヲ開始ス空襲後持ニ繁忙ナリニ軍需品ノ  
揚塔輸送ニヨリ其ノ分散ニ任ス

嘉手納支部長澤中尉ハ十月中旬那霸鐵道司令官ナリ  
業務部長山崎實大尉ハ其ノ後任トシテ嘉手納支部長ト  
ナリ瘦久地港ハ十月十日空襲ヲメテ大ナル被害ヲ受ケタリ  
名護ニ支部ヲ移轉シ瘦久地ニ支々部ヲ置ク更ニ十一月  
恩納ニ支部ノ出張所ヲ設ク  
十月末才三十二軍野戰貨物廠球八八二部隊那霸

上陸共ニ蘇下陸上勤務ヲ七十三中隊主力ハ同敵ニ轉屬ス  
十二月山崎實大尉嘉手納支部長ヨリ業務部長ニ轉ジ  
本部附陸軍中佐中本源三郎嘉手納支部長ニナル  
尚町設水上勤務隊一〇三中隊ハ長以下主力度長附  
海上挺身隊ニ配屬セラレ其餘ヲ口頭ヨリ特設  
水上勤務隊一三三中隊球八八五部隊陸軍中尉田中良雄  
兵站ニ補充スル

昭和二十一年一月ニ教回三月一日ニ大規模ナル那霸空襲  
アリテ此門ヨリ本島上陸偵察頻繁ヲ加フ  
米軍會本島攻東ノ全圖ヲ露呈ス  
兵站ハ益々業務ノ繁化ニ伴ヒ一月兵站直轄馬  
鞍重中隊ヲ新設シ長陸軍中尉久我久雄

本島馬ヲ四百余頭徵用又尚野尻ヨリ口士内街兵  
ヲ召集ス六〇〇名長陸軍中尉翁永自敬後同中尉口  
頭進撃小隊長テリシ陸軍小尉友寄西郎ニヨリ  
兵站内街中隊ヲ編成揚塔輸送ヲ強化シ圖ル  
尚軍命令ニ基キ戰鬥間特編才ニ旅團編成ノ  
計畫ク文京三月ヨリ訓練教育ヲ強化シ戰鬥開  
始ニ備ヘ亦兵站女子軍馬及ニ那霸兵士積徳高等  
女學校生徒ノ從軍者ヲ護婦トシテノ教育ヲ二月  
ク三月ニ一旦リ實施シ兵站各部隊附軍醫之ヲ擔  
尚マ三月兵站副官陸軍中尉蒲地篤誠ヲ護支部  
長ニテリ同支部長中西敬三本部副官トシテ尚三月陸軍  
軍醫中尉福島度之助沖繩陸軍病院(球八〇三部隊)

ニ轉屬シ其ノ後任トシテ高橋宣認軍醫中尉徳之島陸  
軍病院ヨリ着任高級軍醫トナル猶二十年十二月陸  
々々中尉松浦秀廣軍重砲兵于一聯隊ニ勤務ヲ命  
ゼラル

### 三戰手間部隊行動概要

三月二十三日本島米機大空襲ニ次テ同二十四日島  
尻南部溪川ニ初艦砲射車ヲ開始シ同日度  
良間諸島ニ上陸ヲ開始シ愈々本島攻取ノ火蓋  
ハ切ツテ落カレタ部隊長以下意氣正ニ斬昂  
二十五日迄ニ名護嘉手納支部、那霸集結  
ヲ待テラニ廿五日神里陣地ニ砲動ニ同地附近  
警備特ニ軍後方ノ米落下傘部隊降下

後方攪乱ニ備フ 豫テヨリ、特編才ニ旅團ノ戰  
 斗間、計畫ニ基キ三月下旬旅團司令部  
 ハ南風原津壽山、舊才三三軍各部内河  
 密ニ秘動ニ兵駐紮下部隊ヲ基幹トスル才  
 二聯隊才一大隊ハ神里附近、警備ニ就ク  
 戰斗間、任務トシテハ依然ト三軍命令ヨリ  
 兵站業務特ニ部隊ノ轉進ニ伴フ糧秣彈  
 藥ノ輸送ノ負傷者ノ後方輸送ニ努力スルト共  
 二前記ノ米記、米軍、後方攪乱ニ對スル警  
 戒ニ任ズ

特編才ニ旅團ノ編成左如シ  
 特編才ニ旅團長兼才ニ聯隊長 陸軍大佐

高宮 章  
 (兵站地区隊長)

同 才一大隊長 陸軍大尉 山崎 實

特編才ニ聯隊長才ニ軍野兵器廠團長 陸軍中佐

土田 寅次郎 (兵站器材廠長)

特編才四聯隊才ニ軍野戰貨物廠團長

陸軍主計大佐 伊藤 馨 (貨物廠長)

才一大隊ノ編成並ニ警備地左ノ如シ

才一中隊 陸軍中尉 長久我 久雄 (南風原前哨)

二二 陸軍中尉 森田 芳雄 (神里)

三 陸軍中尉 山口 鐵造 (稻嶺)

四 陸軍中尉 大島 賢三 (南風原前哨)

五 陸軍中尉 豊田 榮次郎 (稻嶺)

大隊本部 陸軍大尉 山崎 實

直轄機用銃中隊 陸軍中尉 長澤永作(南風原出)

直轄防衛中隊 小尉 友寄四郎

才三聯隊下部隊 陸軍少佐 杉本貞

才三軍兵器勤務隊 陸軍中尉

才四聯隊下部隊 陸軍中尉

陸上勤務才三三隊(或四八三三部隊) 劍持作造

才三野戰防疫給水部隊(或三三部隊) 陸軍中尉 藤井作太郎

藤井作太郎

其他之夜隊ト三軍各部(經理部兵器部法務部)アリ

才三聯隊本部 南風原村津嘉山附近 三在り向附近

二四 嘉屋武附近

警戒戒厳ニ本ノ業務ヲ分擔ス

才三特編旅團本部ハ三月下旬ニ到ル間津嘉山ニアリ

才一大隊ハ依然ト三神里附近ニアリ

四月下旬戰斗ニ関スルハ才三番節團ノ指揮ヲ受クル事トナリ

若干戰車肉攻班及之斬込隊ヲ選抜シ前線ニ出動セリ

四月下旬才三番節團主力首里前面ニ轉進シ島尻ノ陣

地ヨリ移動スル才三 特編旅團ハ島尻警備ヲ命ゼラレ

旅團長島尻警備隊長ニテリ兵站業務係ノ一部ヲ

原駐地ニ殘置シテ主力ハ島尻各地ニ分散配備ニ就ケリ

旅團司令部ハ四月下旬島尻郡岫座岳ニ移動シ才一

大隊本部ハ具志頭村新城ニ移ル

特編才三才四聯隊ハ依然ト三高配備地ニアリ



五月中旬、首里攻め戦、燭列より首里先隊に懸スルヤ亦一大  
隊主力ハ予ニ四節團ノ指揮下ニ編入シテレ  
警備地ヲ轉進首里前面ノ戦斗ニ参加ス 五月十七日  
予ニ二日ノ間首里中里西北方ヨリ五ニ七高地ニ於テ  
予ニ中隊ハ有カナキ戦車ヲ伴フ部隊ノ攻勢ヲ受  
ケ相當ノ損害ヲ沐軍ニ與ハレルモ中隊長久我中尉  
小隊長田寺中尉同平井曹長軍醫三原見曹士  
官相次々テ戦死シ殆ド玉碎僅ニ生残者尙主共六  
ノミナリ又予ニ中隊森田隊ハ戦車ヲ二七聯隊ニ配  
屬トナリ首里石嶺附近ノ戦斗ニ参加シ中隊長  
森田中尉小隊長藤川少尉戦當ノ死傷者ヲ出セリ  
大森隊本部ハ予ニ四節團直轄ノ隊備隊トナリ  
第六中隊ト共ニ首里陣地強化ニ當リソレモ之ニ相當

ノ死傷者ヲ出セリ 旅團司令部ハ此ノ間依然ト予ニ與ニ坐坐  
ニ對シ 後ヲ警備ニ任シ予ニ中隊山口隊ハ島尻南部  
ニ於リ五月下旬首里陥落ニ敵ヲニ委ヌルニ及テ大隊ハ  
予ニ四節團ノ島尻後道ニ伴ヒ島尻南部ニ轉進シ各  
々予ニ四節團ノ各聯隊ニ配屬セリ六月下旬ヨリ下旬  
頃ニ坐附近ノ一ノ重瀨島附近ノ戦斗ニ参加シ其ノ大  
部ノ者ハ戦死セルモノ如シ  
予ニヨリ先南風原・沖繩陸軍病院五月下旬敵中ニ陥ル  
ニ及ビ同病院島尻南部本須附近ニ後退スルヤ旅團  
連者收療シタテ五月下旬ヨリ島尻高嶺村大城本附  
近ニ特編方ニ旅團患者收療所ヲ開設シ負傷者  
ノ收療ニ盡ク從事ス

同遷者收容所編成左ノ如シ

收容所長 陸軍大尉 大谷強之助

附 陸軍少佐 高橋宣認

陸軍中尉 伊藤福天

衛生部長 伊藤福天

衛生進尉 岡 久治

衛生曹長 高山義次

陸軍曹長 森田辰彦

陸軍曹長 小山榮次

衛生佐長 富田 豊

衛生上尉 寺田誠夫

陸軍一等兵 田辺

輜重上尉 伊藤賢一

他女子軍馬看護婦 十三名

同收容所遷者收容所 五月二十日 - 六月八日 延一〇〇名

六月七日 島尻郡摩子文村山城ニ移動ス遷者收容所 六月七日

大城森司 砂動ヲ開始シ更ニ南ヲ福地ニ後退シ更ニ

同部落ニ迫更砲艦砲強落下スルニ及ビ十日善屋

武岬南端ニヤシク北地帯ニ移動シ十一ヨリ十六日

流石 義富

小林 正平

飯井 保太郎

田辺

伊藤 賢一

輜重上尉 伊藤賢一

他女子軍馬看護婦 十三名

同收容所遷者收容所 五月二十日 - 六月八日 延一〇〇名

六月七日 島尻郡摩子文村山城ニ移動ス遷者收容所 六月七日

大城森司 砂動ヲ開始シ更ニ南ヲ福地ニ後退シ更ニ

同部落ニ迫更砲艦砲強落下スルニ及ビ十日善屋

武岬南端ニヤシク北地帯ニ移動シ十一ヨリ十六日

二到ル間收療ニ從事スルニ愈々敵機ノ爆弾砲再々下加  
 療不可能ニ至リタルヲ十七日迄者ヲ原隊ニ歸セシメ解  
 散セリ 六月中旬特編隊ニ旅團及〇兵共ニ解散軍令  
 命下リ一才三十三師團才三十四旅團ノ指揮下ニ入リ  
 各縣下軍隊ハ才十五ノ隊ノ配屬ニナリ二月中旬ヨリ下旬  
 二喜屋武貞壁貞榮平ノ小隊附近ニ戦ヲ於テ部  
 隊長以下其ノ大半ハ戦死セリ而シテ終戦トナリテ我  
 才四九多站地込隊本部ノ戦死生残者ハ左ノ通りナリ

戦死 甲 將校 十一名 下士官 二十二名 兵 三十三名 重傷 二名  
 " 乙 " 七名 " 十名 " 十名 " 二名  
 " 丙 " 十五名 " 十名 " 二十五名 十七名  
 生残者 " 二名 " 十五名 " 十七名  
 斯クシテ悲慘ナル沖繩戦ハ戦友ノ血ヲ以テ島ノ  
 青草ヲ染メ終了セリ

以上

拜後

残雪ノ候 困難方ノ處理米防ニ即從事

感謝に堪えずせん 陳者 私儀行動状況別

紙に取入 所送附甲上ノ事

先日右ノ通り通知

玉碎勇士の遺徳に對する仰骨折。程  
仰願車ニ付テ  
敬白

三月二十一日

東京都五十二區東十條町四四

黒田成雄

亦一調査課  
沖繩班中

一部隊動員完結後ヨリ沖繩ニ玉碎死シテノ状況

昭和十九年七月二十二日

甲三府市

東部六十三部隊ニ於テ動員  
完結（四月九日駐地ニ隊本部一  
通稱ヨリ五月九日部隊）

門司港 出立

那霸港 到着

沖繩 本島 作戦ニ参加

沖繩ニ於テ 喜屋戸岬 戦開

ニ参加

昭和十九年八月一日

昭和十九年八月十日

昭和十九年三月十五日

昭和二十年六月二十日

昭和二十年六月十五日

部隊全員 玉碎

二 沖繩ニ配属セラレ前ニ一 部属部隊名

甲府六十三部隊ニ召集 動員完結後直ニ沖繩ニ配属ス